

仙台市のエイズ・性感染症の動向

1. HIV・エイズ発生動向

(1) HIV 感染者とエイズ患者報告数 年次推移の比較

○ 全国の状況

・HIV 感染者およびエイズ患者の年間新規報告数は近年減少傾向となっており、令和 4 年の HIV 感染者数は 625 件、エイズ患者数は 245 件で、HIV 感染者数とエイズ患者数を合わせた新規報告数は 870 件であり、いずれも前年より減少し、平成 15 年以來初めて 1,000 件を下回った。【図 1】

図 1 全国の HIV 感染者とエイズ患者報告数の年次推移 【昭和 60 年～令和 4 年】※R4 年は速報値

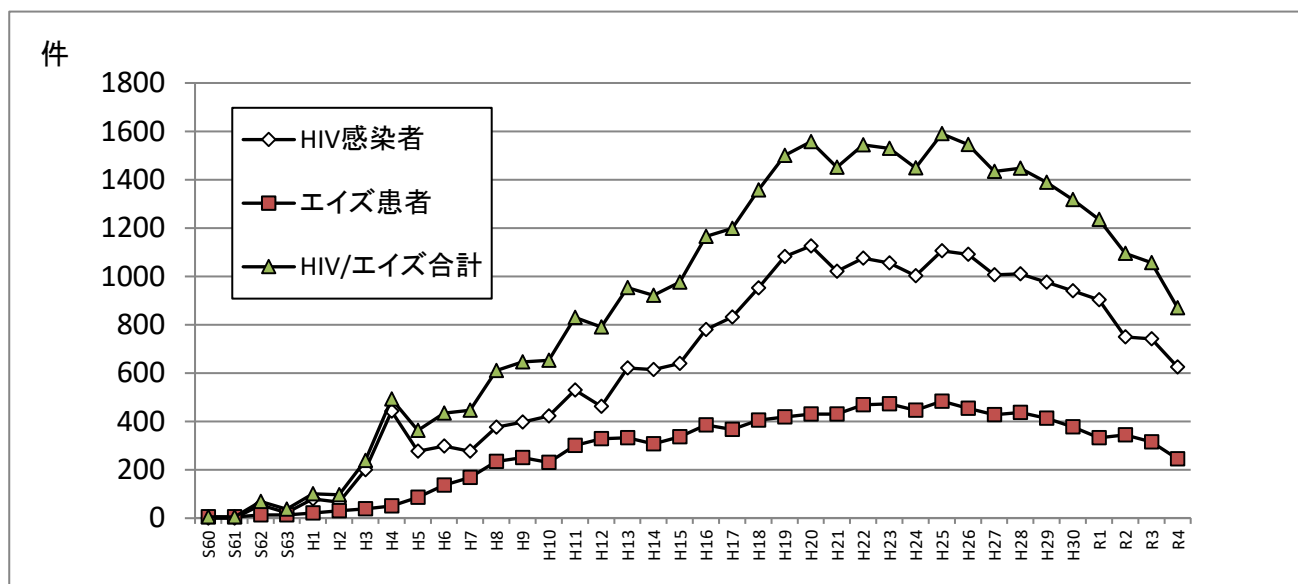
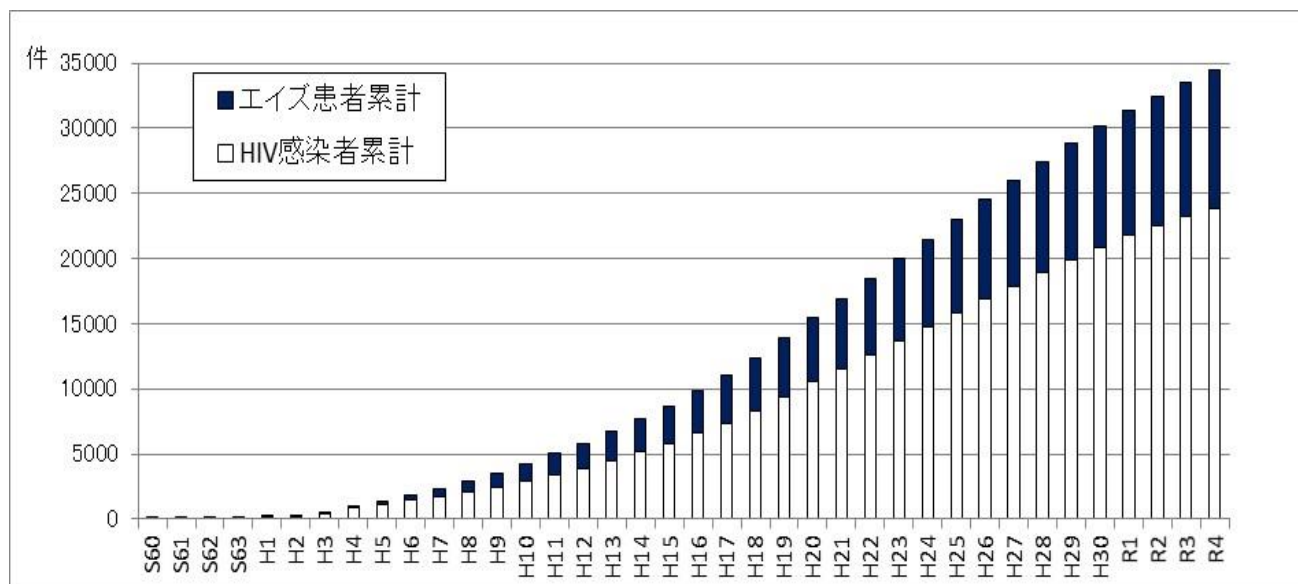


図 2 全国の HIV 感染者とエイズ患者の累積報告数 【昭和 60 年～令和 4 年】※R4 年は速報値



○ 仙台市の状況（R4年は速報値）

- ・新規報告数は令和3年（確定値）がHIV感染者6件、エイズ患者3件の計9件、令和4年（速報値）がHIV感染者6件、エイズ患者2件の計8件であった。【図3】

図3 仙台市のHIV感染者とエイズ患者報告数の年次推移【昭和63年～令和4年 ※R4年は速報値】

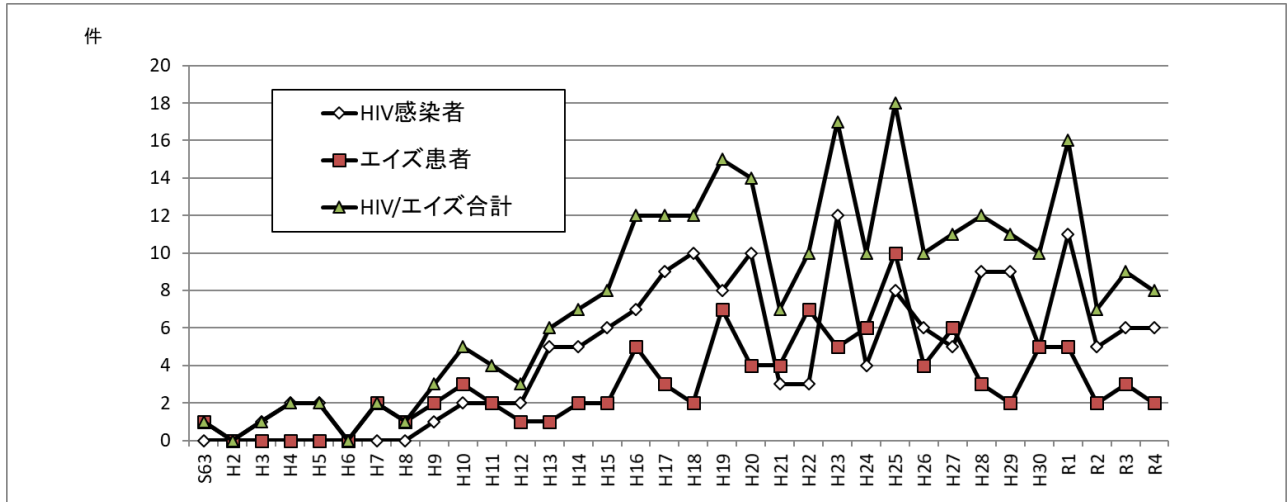
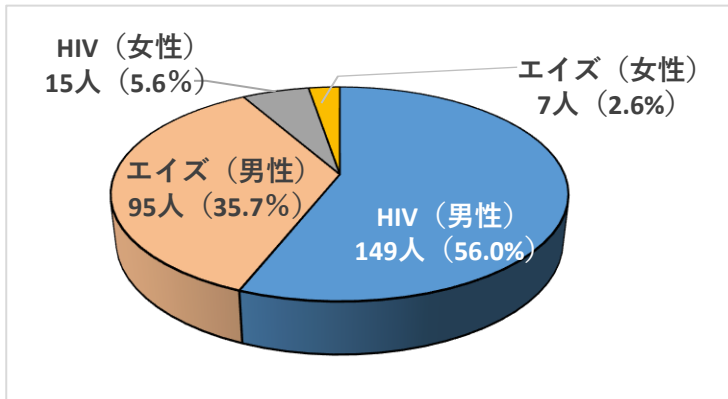


図4 仙台市のHIV感染者とエイズ患者の累積報告数 性別割合【昭和63年～令和4年 ※R4年は速報値】



【累積報告数（S63年～R4年）】
 HIV感染者 164件
 エイズ患者 102件

(2) いきなりエイズ率 年次推移の比較

※「いきなりエイズ率」とは、HIV感染を認知せずにエイズを発症した事例の割合を言う。

- ・令和3年の全国の「いきなりエイズ率」は29.8%で前年より減少した。【図5】
- ・仙台市の「いきなりエイズ率」は年によってばらつきがあり、令和3年は33.3%であった。【図5】
- ・過去5年の仙台市の累積報告は、年齢が上がるほどエイズ患者の報告が多くなり、50代以上では半数以上がエイズ患者として報告されている。【図6】

図5 全国及び仙台市の「いきなりエイズ率」の年次推移【平成22年～令和3年】

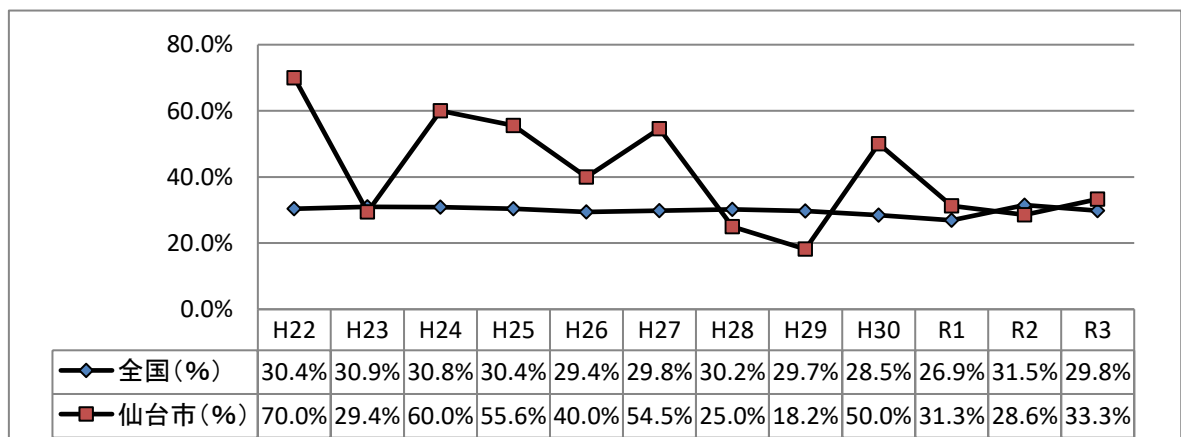
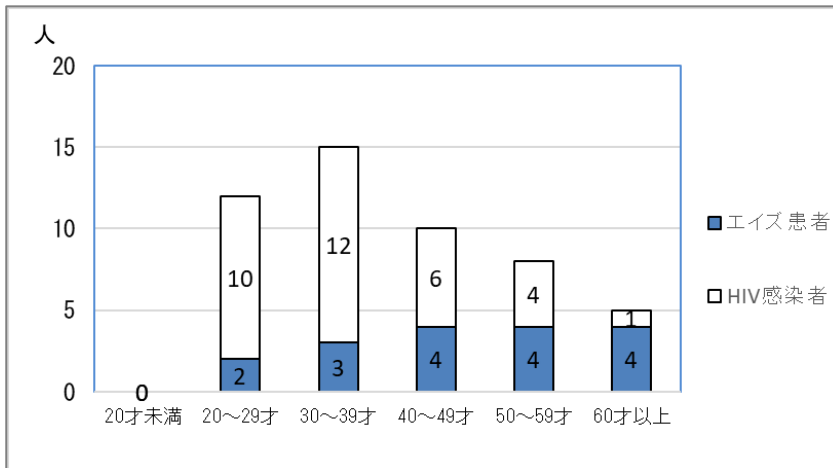


図6 仙台市のHIV感染者・エイズ患者年齢別割合【平成30年～令和4年累計 ※R4年は速報値】



(3) 仙台市のHIV感染者とエイズ患者の推定感染原因

- 過去5年の累積報告における推定感染原因【図7】
 - ・推定感染原因が判明している方は88%で、すべて性的接触による感染であった。
 - ・同性間性的接触が大部分を占め60%であった。異性間性的接触・同性間性的接触の両方の可能性がある方が2%だった。
- 年次推移報告【図8】
 - ・平成30～令和3年までは同性間性的接触の件数が最も多かったが、令和4年（速報値）では異性間性的接触が62.5%と最多であった。

図7 仙台市の推定感染原因別感染者・患者報告割合【平成30年～令和4年累計 ※R4年は速報値】

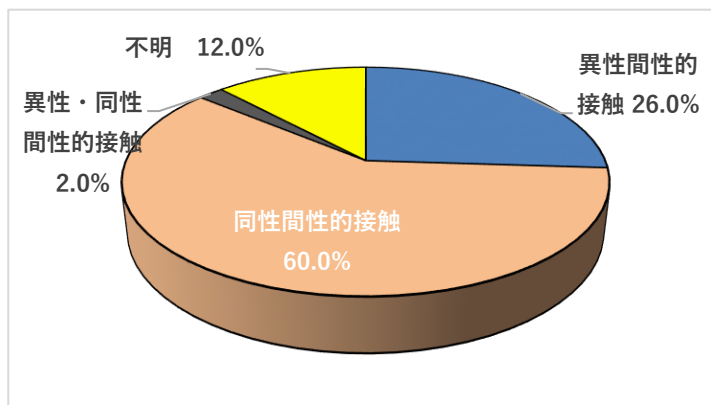
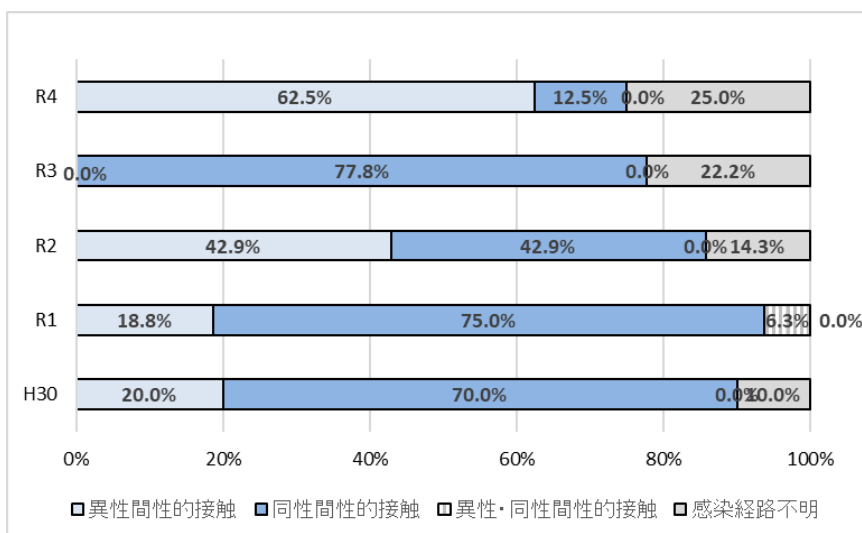


図8 仙台市の感染原因別割合の年次推移【平成30年～令和4年 ※R4年は速報値】



(4) 仙台市の診断時のCD4陽性Tリンパ球数の状況

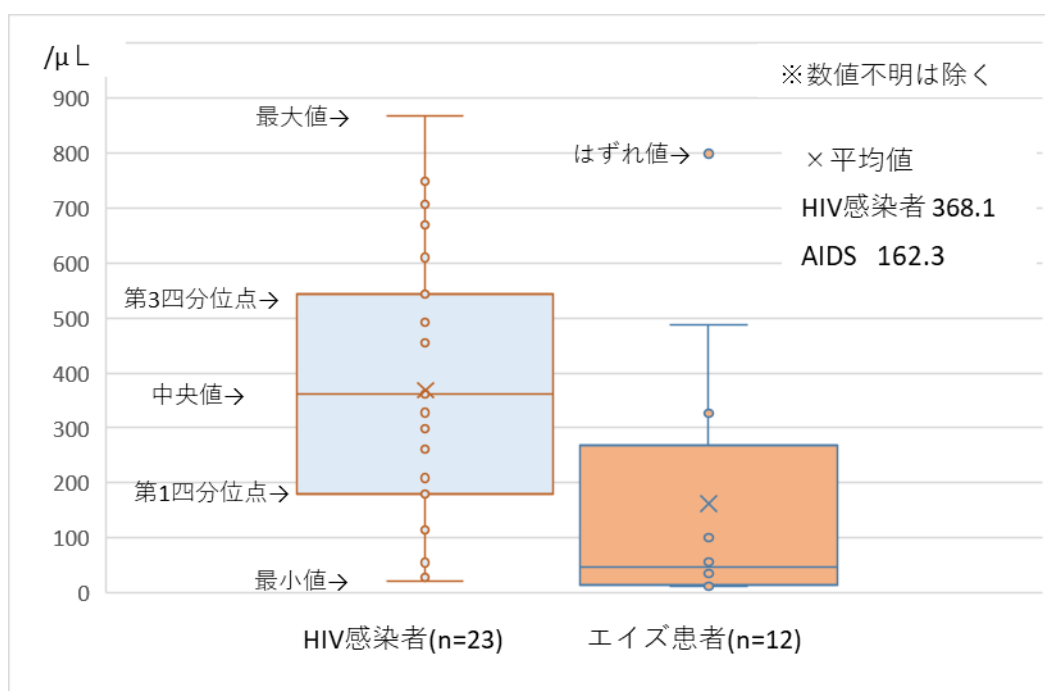
・平成31年1月(2019年)の届出より、HIV感染症の早期診断の推進度合いを把握する目的で、届出事項に診断時のCD4陽性Tリンパ球数が追加されている。CD4陽性Tリンパ球数は、HIV感染症により障害を受けた患者の免疫力を反映する重要な指標となる。健常者のCD4数は500~1,000/ μ Lで、感染者において200/ μ L未満となると日和見疾患のリスクが高まる。

・令和4年(速報値)のHIV感染者・エイズ患者計8件の診断時のCD4陽性Tリンパ球数は、以下のとおりであった。

- ┌ HIV感染者(6件): CD4陽性Tリンパ球数 122~868/ μ L 5名、不明1名
- └ エイズ患者(2件): CD4陽性Tリンパ球数 326/ μ L 1名、不明1名

・平成31年~令和4年(過去4年)の診断時CD4数は、HIV感染者ではCD4数平均は368.1/ μ L、エイズ患者では平均162.3/ μ Lであった(※数値不明5名を除く)。【図9】

図9 診断時のCD4数【平成31年~令和4年 ※R4年は速報値】



2. 梅毒発生動向

○ 全国の状況（令和4年は速報値）

・平成23年以降増加傾向にあり、特に平成28年から平成30年にかけて大幅な増加がみられ、その後も感染者の多い状況が続いている。令和4年の報告数（速報値）は12,966件と前年より約5,000件増加した。【図10】

・男女別でみると、過去5年間、いずれの年も男性の報告数が女性よりも多い。【図11・図12】

・令和3年の報告を性別・年代別にみると、20代女性の報告が最も多い。男性は20代～40代に多く、女性は20代が突出して多い。【図13・図18④⑤⑥】

図10 全国の病期別梅毒報告数の推移【平成20年～令和4年 ※R4年は速報値】

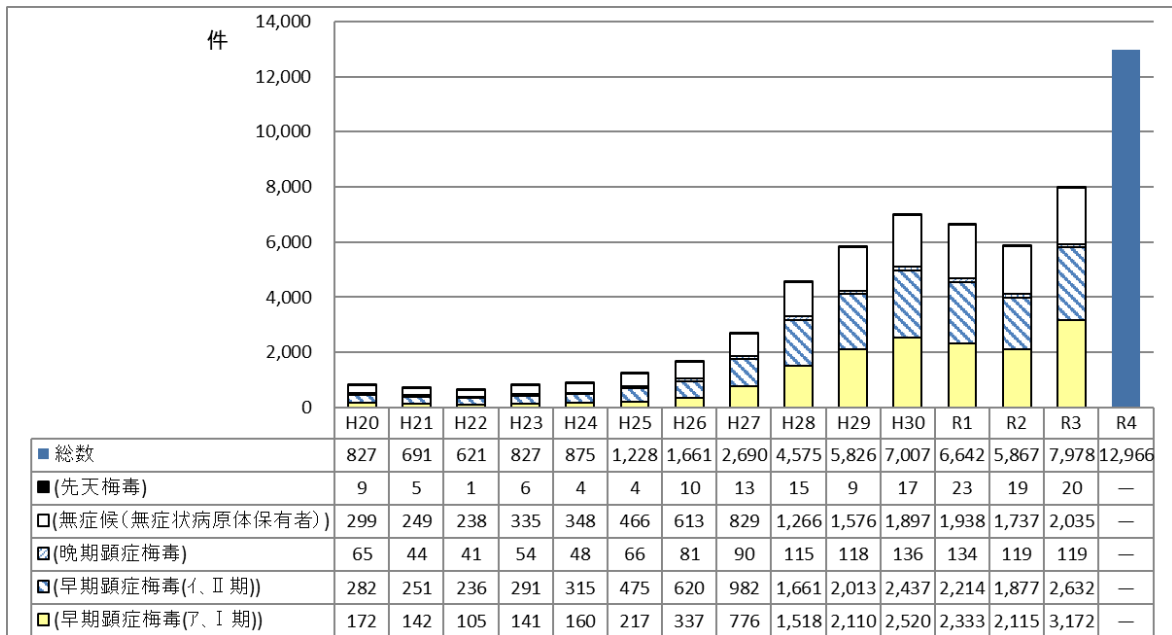


図11 全国の男女別梅毒報告数の推移【平成29年～令和3年】

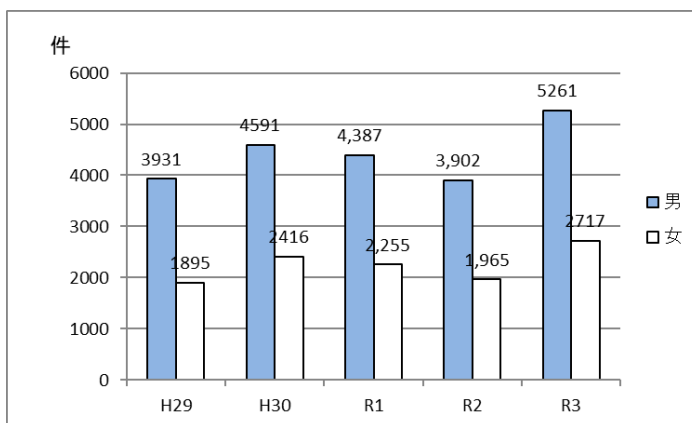


図12 全国の梅毒報告の男女比の推移【平成29年～令和3年】

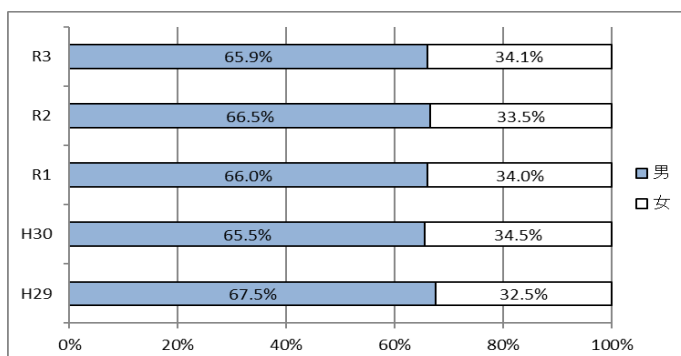
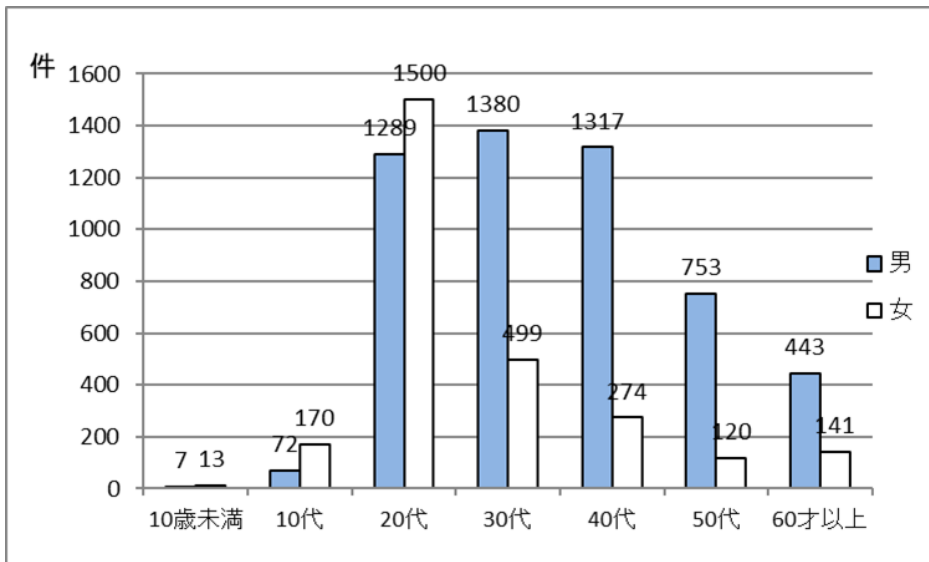


図 13 全国の年代別梅毒報告数【令和 3 年】



○ 仙台市の状況（令和 4 年は速報値）

- ・仙台市の梅毒報告数は、平成 25 年以降増減を繰り返しており、特に平成 29 年以降、報告数の多い状態が続いている。令和 4 年は 95 件と過去最多となった。【図 14】
- ・男女別にみると、過去 5 年いずれの年も男性の報告数が女性より多い。【図 15・16】
- ・令和 4 年の報告を性別・年代別にみると、20 代女性が最も多く、男性は 30 代～50 代に多い。また、先天梅毒の報告が 1 件あった。【図 17・図 18①②③】

図 14 仙台市の病期別梅毒報告数の推移【平成 20 年～令和 4 年 ※R4 年は速報値】

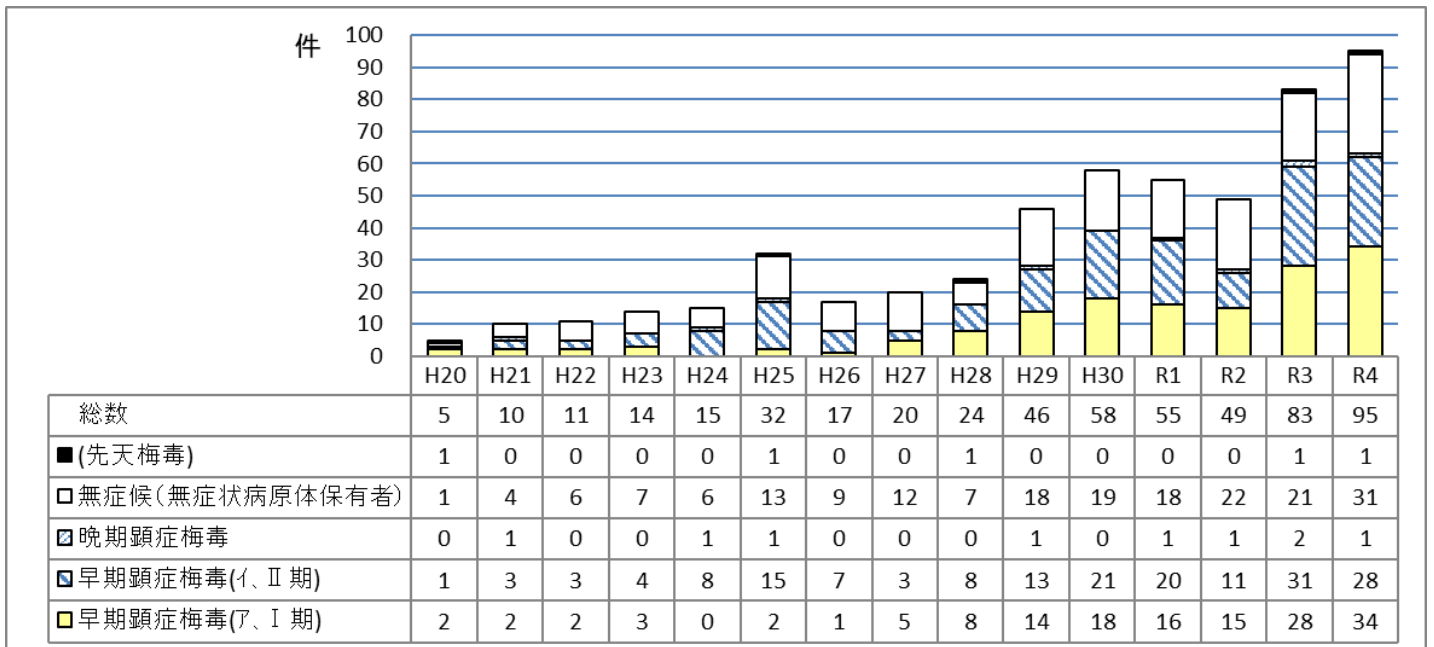


図 15 仙台市の男女別梅毒報告数の推移【平成 30 年～令和 4 年 ※R4 年は速報値】

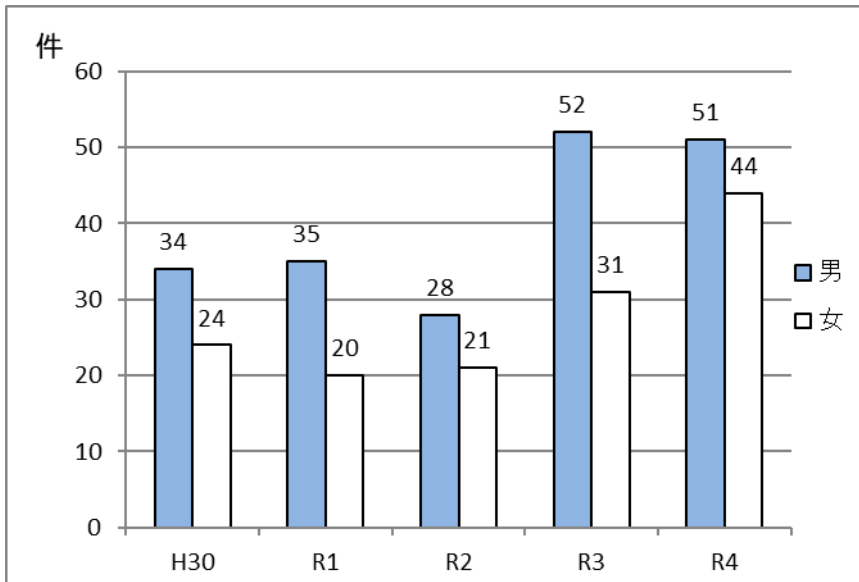


図 16 仙台市の梅毒報告の男女比の推移【平成 30 年～令和 4 年 ※R4 年は速報値】

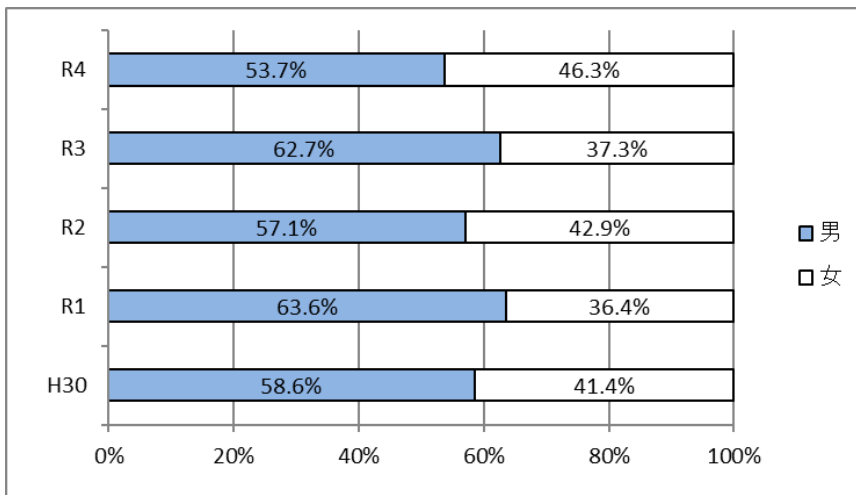


図 17 仙台市の年代別梅毒報告数【令和 4 年 ※速報値】

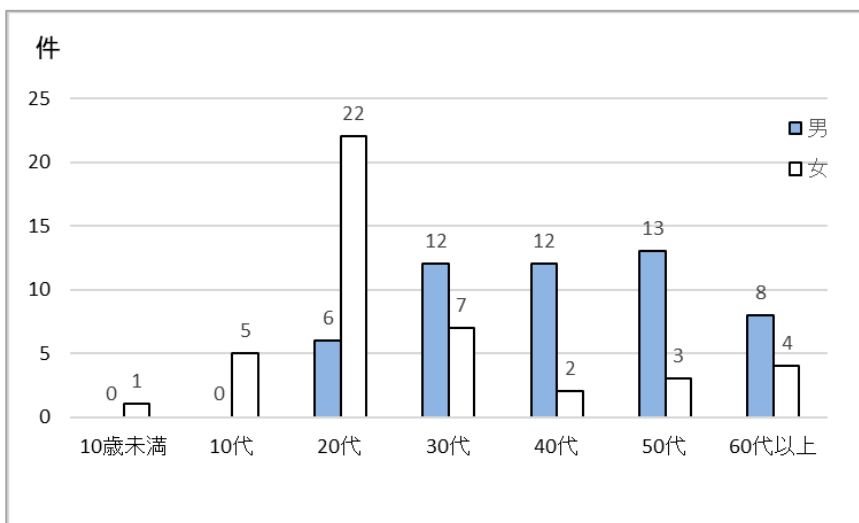
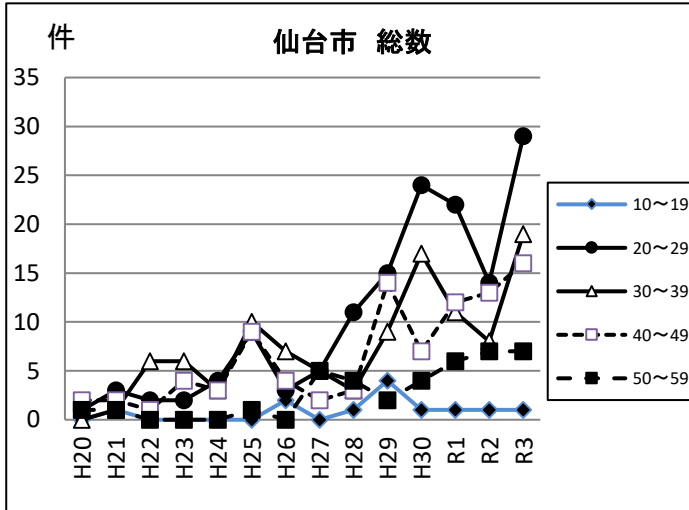
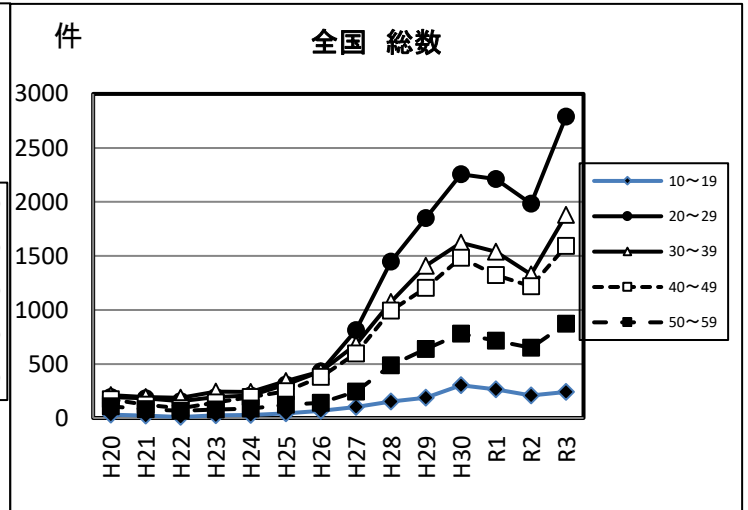


図 18 仙台市・全国の性別・年代別梅毒報告数の推移【平成 20 年～令和 3 年 10 代～50 代】

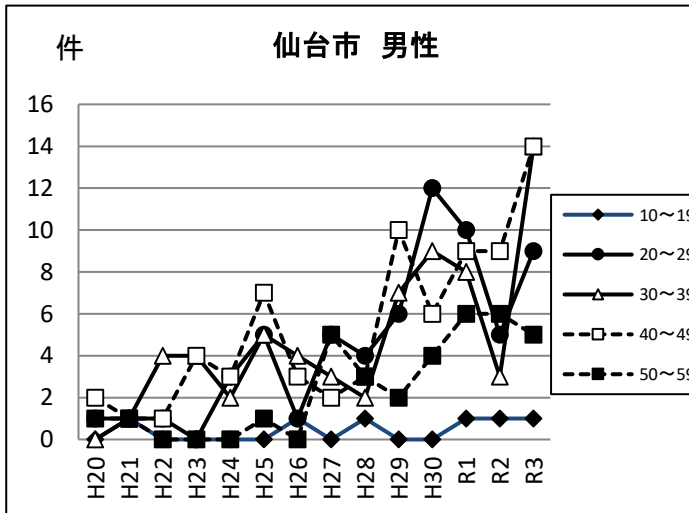
①



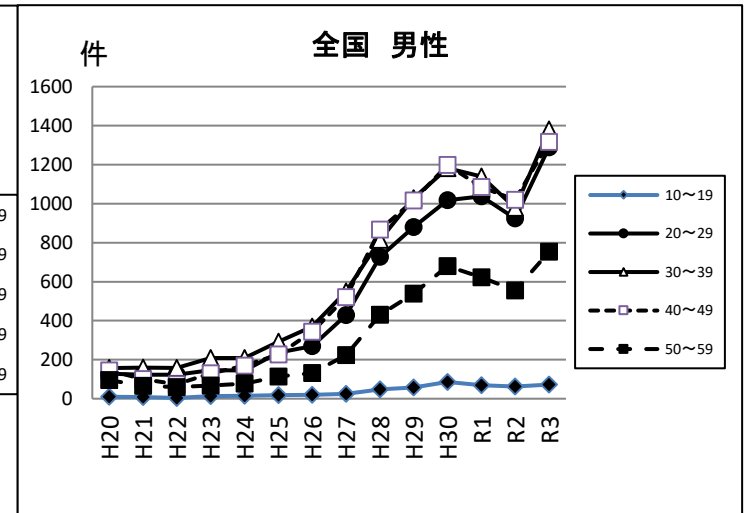
④



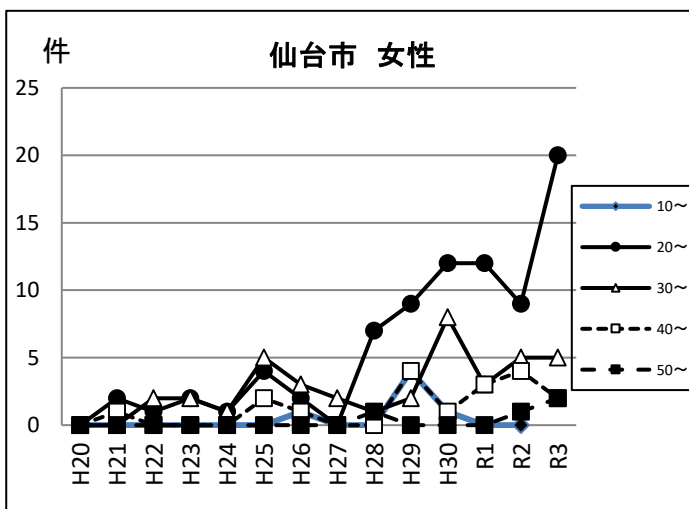
②



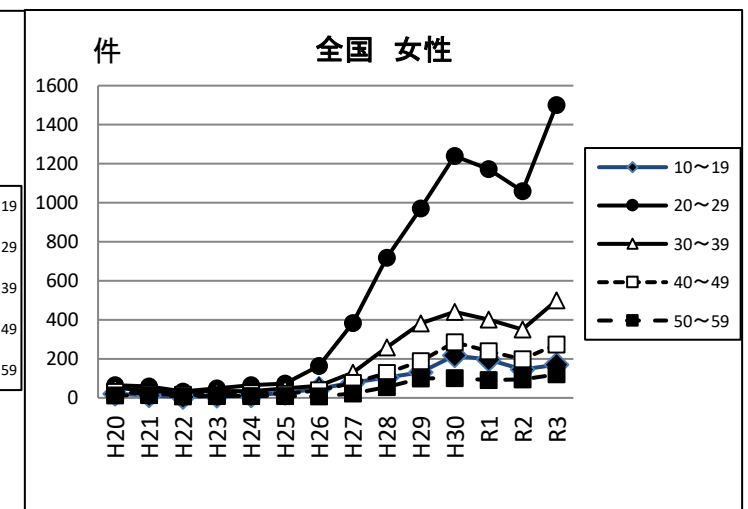
⑤



③



⑥



○ 梅毒発生届に追加となった事項のまとめ（仙台市の状況）【表 1】

- ・平成 31 年 1 月より、医療機関からの梅毒届出事項に以下の項目が追加された。
 - ①性風俗産業の従事歴の有無（直近 6 か月以内） ②性風俗産業の利用歴の有無（直近 6 か月以内） ③口腔咽頭病変の有無 ④妊娠の有無 ⑤梅毒の治療歴の有無 ⑥HIV 感染症の合併の有無
- ・仙台市の令和 4 年の梅毒報告数（速報値）95 名（男性 51 名、女性 44 名）の内訳は表 1 のとおりであった。
- ・仙台市の届出のうち、直近 6 か月以内に性風俗産業の従事歴・利用歴があると確認されている者の割合は、令和 4 年は 31.6%（R3 39.8%）である。当該項目の記載がなかった届出もあるため、断定は難しいが、徐々に感染者に占める性風俗産業の従事歴・利用歴がある者の割合は減少している可能性がある。【表 2】

表 1 仙台市の梅毒患者の状況【令和 4 年届出分 ※令和 5 年 7 月 27 日抽出時点】

①性風俗産業の従事歴（直近 6 か月以内）

区分	男性 51 名中	女性 44 名中	合計 95 名 (割合)
あり	1	15	16 (16.8%)
なし	35	19	54 (56.8%)
不明・記載なし	15	10	25 (26.3%)

②性風俗産業の利用歴（直近 6 か月以内）

区分	男性 51 名中	女性 44 名中	合計 95 名 (割合)
あり	14	0	14 (14.7%)
なし	16	22	38 (40.0%)
不明・記載なし	21	22	43 (45.3%)

③口腔咽頭病変

区分	男性 51 名中	女性 44 名中	合計 95 名 (割合)
あり	0	1	1 (1.1%)
なし	51	43	94 (98.9%)

④妊娠

区分	女性 44 名中
あり	5*
なし	39

※妊娠 7 週 2 名、9 週 1 名、10 週 1 名、38 週 1 名

⑤梅毒の治療歴

区分	男性 51 名中	女性 44 名中	合計 95 名 (割合)
あり	4	3	7* (7.4%)
なし	37	37	74 (77.9%)
不明・記載なし	10	4	14 (14.7%)

※治療時期：1 年より前 4 名、1 年以内 3 名

⑥HIV 感染症の合併

区分	男性 51 名中	女性 44 名中	合計 95 名 (割合)
あり	7	0	7 (7.4%)
なし	20	17	37 (38.9%)
不明・記載なし	24	27	51 (53.7%)

表 2 性風俗産業の従事歴・利用歴ありと確認されている者の割合

【仙台市の令和元年～令和 4 年の状況 R4 年は速報値】

区分	全梅毒報告数 (件)	性風俗産業の従事歴 ・利用歴あり(件) (直近 6 か月以内・実数)	性風俗産業の従事歴 ・利用歴ありの者の割合 (直近 6 か月以内)
平成 31/令和元年	55	25	45.5%
令和 2 年	49	20	40.8%
令和 3 年	83	33	39.8%
令和 4 年	95	30	31.6%

3. その他の性感染症の発生動向

・性感染症4疾患の定点あたり報告数については、仙台市の報告数は全国の報告数に比較して多い傾向にある。【図19】

・令和4年の仙台市と全国の4疾患の定点あたり報告数を年代別・性別にみると、性器クラミジア感染症は40代男性、10代・20代女性の報告が特に全国と比べ多い。性器ヘルペスウイルス感染症は、男性は20代前半・30代前半・40代前半、女性は50代前半を除く幅広い年代で全国よりも報告数が多い。淋菌は20代から30代の女性が全国よりも報告数が多い。尖圭コンジローマは、男性は10代・50代前半を除く幅広い年代で、女性は20代前半が全国に比べ報告数が多い。【図20】

※ 性感染症4疾患は定点報告

※ 令和4年の性感染症4疾患の定点医療機関として、産婦人科5か所、泌尿器科3か所に報告を依頼している。

図19 全国・仙台市性感染症定点あたり報告数の年次推移【平成30年～令和4年】※R4年は速報値

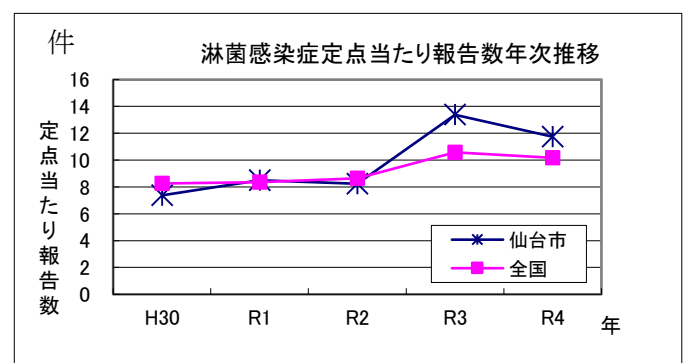
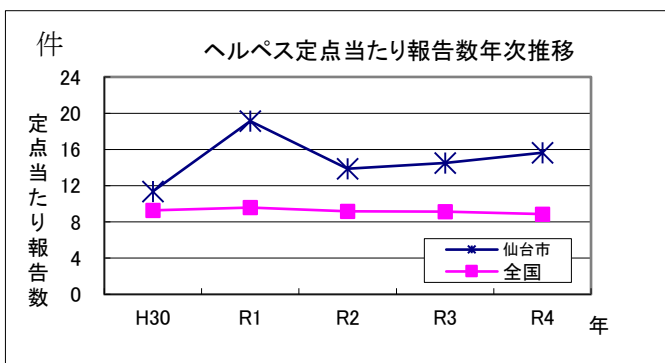
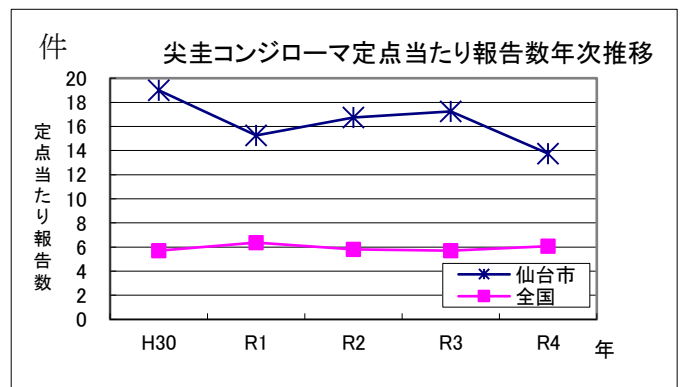
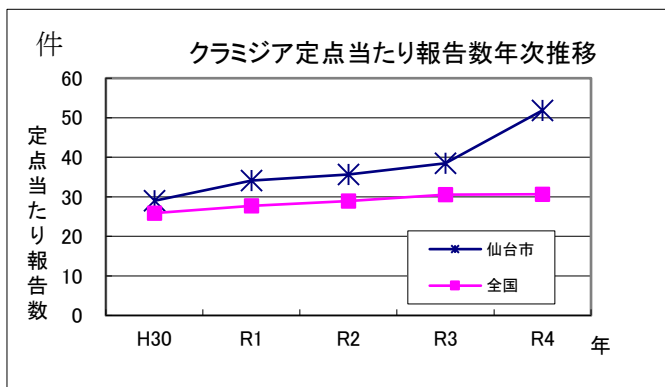
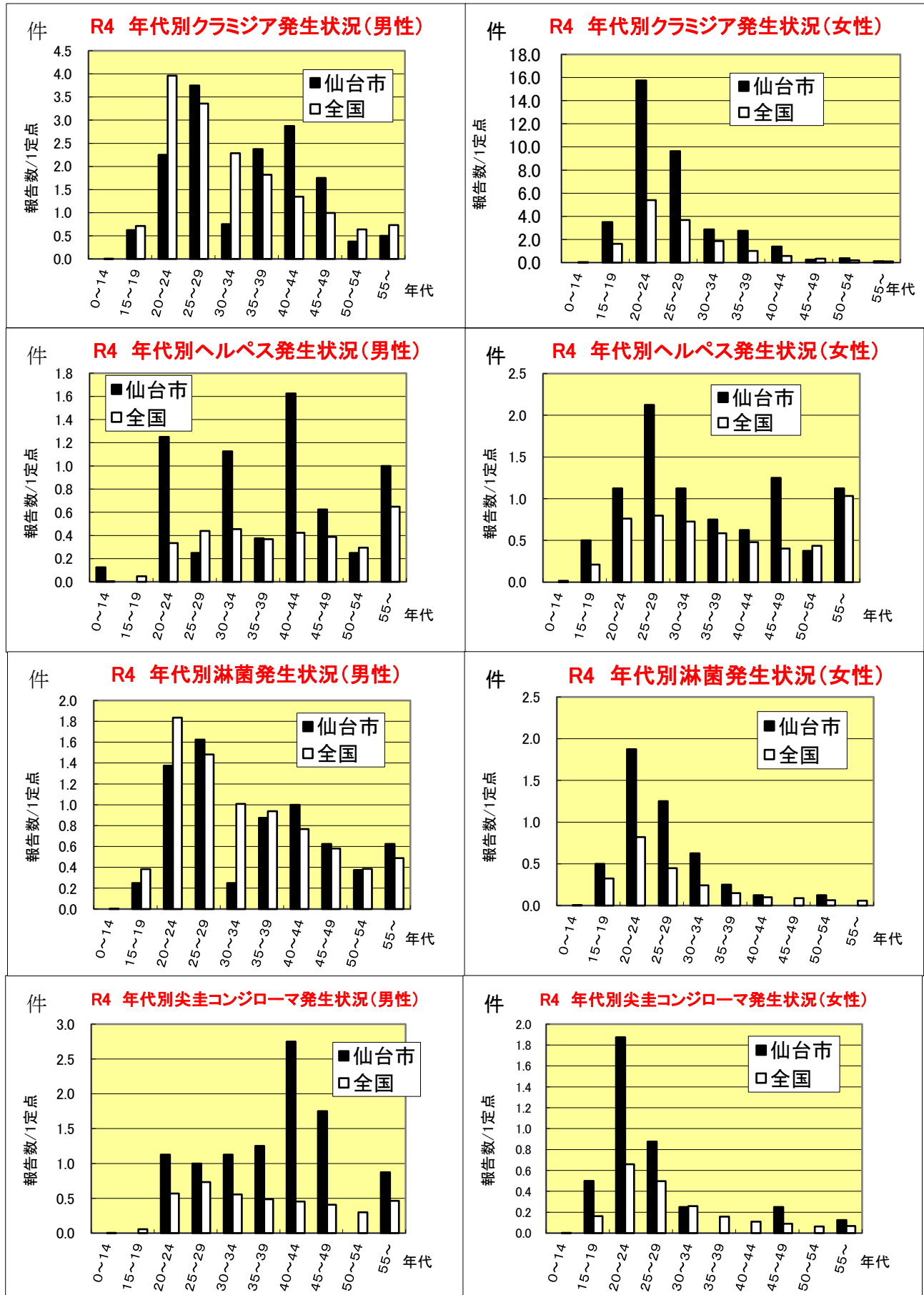


図 20 令和 4 年 年代別・性別 性感染症発生状況（全国・仙台市との比較）※速報値

< 男性 >

< 女性 >



4. 仙台市保健所の HIV・性感染症検査の実施状況

※検査状況は年度で集計しております。

(1) HIV 検査

・新型コロナウイルス感染症対応のため、令和2年度より一部の検査を休止・定員を縮小していたが、令和3年4月より、青葉区役所にて保健所直営で実施していた休日検査を宮城県結核予防会への委託に変更した。また、令和4年度10月から委託実施分の検査定員を25名から30名へ戻し、安定した検査体制の確保に努めていた。現在、新型コロナウイルス感染症対応のため休止していた、各区役所の平日日中検査を一部再開している。

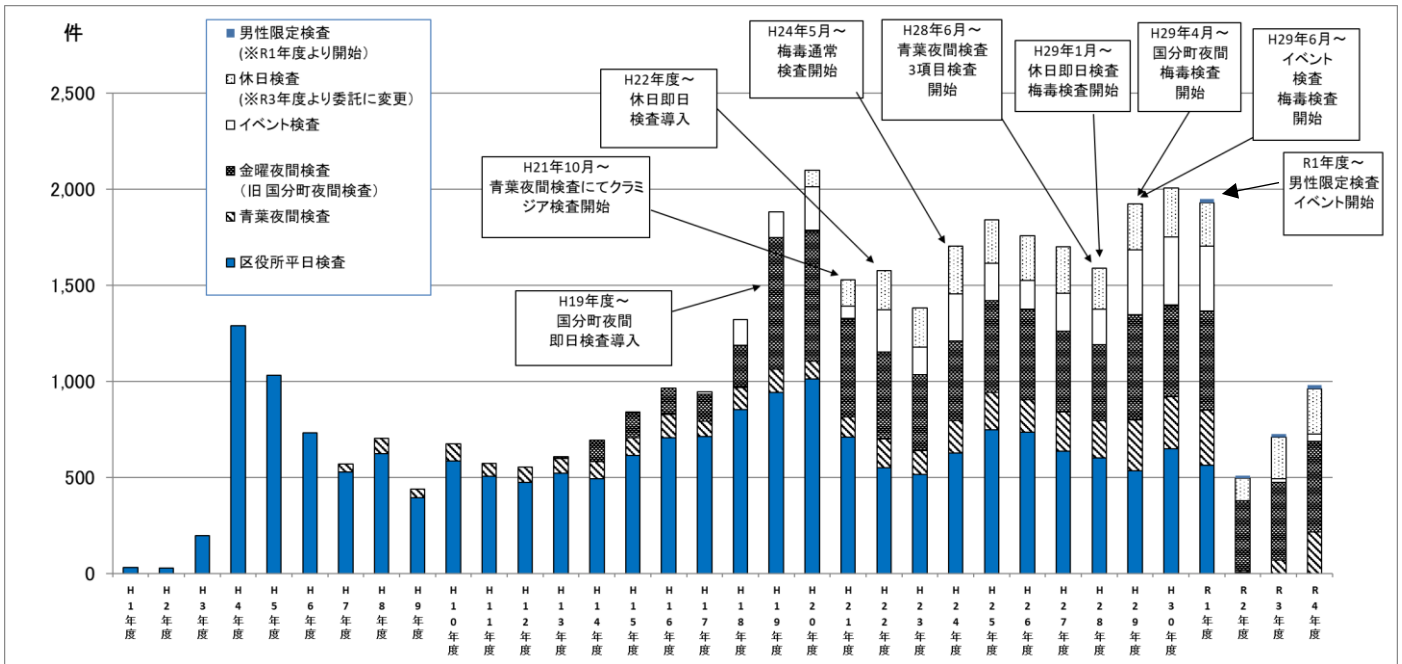
・令和4年度の検査数は983件である（R3比+256件）【表3】

・令和3年度は2名、令和4年度は2名の新規陽性者が判明している。

表3 仙台市保健所のHIV検査件数【平成29年度～令和4年度】

年度		H29年度	H30年度	H31/R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	
検査数(件)		1,923	2,006	1,951	510	727	983	
内 訳	① 区役所平日	件数 (1回平均)	536 (3.8)	650 (4.6)	563 (4.1)	7 (1.8)	休止中	休止中
		割合(%)	27.9	32.4	28.9	1.4		
		陽性件数	1	2	1	0		
	② 青葉区役所 夜間	件数 (1回平均)	264 (22)	271 (22.6)	287 (23.9)	9 (9)	71 (14.2)	217 (18.1)
		割合(%)	13.7	13.5	14.7	1.8	9.8	22.1
		陽性件数	0	0	1	0	0	0
	③ 休日 (H22～即日、R3.4月 より健康相談所 興 生館に会場変更)	件数 (1回平均)	238 (23.8)	254 (25.4)	225 (25.0)	117 (13.0)	219 (18.3)	235 (19.6)
		割合(%)	12.4	12.7	11.5	22.9	30.1	23.9
		陽性件数	0	0	0	1	1	0
	④ イベント(即 日)	件数 (1回平均)	338 (169)	352 (176)	337 (168.5)	0	18 (18)	38 (38)
		割合(%)	17.6	17.5	17.3	0	2.5	3.9
		陽性件数	2	0	0	0	1	1
	⑤ アエル夜間 (H19～即日) (旧 国分町夜間 H31.1月～アエルに 会場変更)	件数 (1回平均)	547 (23.7)	479 (20.8)	518 (22.5)	364 (15.8)	404 (18.4)	471 (20.5)
		割合(%)	28.4	23.9	26.6	71.4	55.6	47.9
		陽性件数	2	1	1	0	0	1
	⑥ 男性限定検査 (即日、R1～開始)	件数 (1回平均)	/	/	21 (21)	13 (13)	15 (15)	22 (22)
		割合(%)			1.0	2.5	2.0	2.2
		陽性件数			0	0	0	0
年度別 陽性者数合計(人)		5	3	3	1	2	2	
年度別 陽性率(%)		0.26	0.15	0.15	0.26	0.28	0.20	

図 21 仙台市保健所のHIV検査件数の推移



○ 受検者の傾向

- ・令和4年度の受検者のうち市内在住者が約8割であった。【図22】
- ・令和4年度の受検者の半分近くが初めての受検であった。【図23】
- ・令和4年度の受検者は約7割が男性、約3割が女性だった。【図24】
- ・令和4年度の年代別では20代が最も多く、ついで30代が多かった。【図25】
- ・過去5年間の受検理由としては、「性行為による心配」の割合が最も多い。【表4】
- ・MSM（男性と性的接触のある男性）の受検割合は、東北HIVコミュニケーションズとのMSM向けの市民協働事業を開始した平成26年度以降、割合は高めで推移しており、令和4年度は16.9%だった。【表5】
- ・検査を知るきっかけは過去5年間いずれの年もホームページという回答が最も多く、令和4年度も同様だった。【図26・27】

図 22 HIV検査受検者の居住地別割合【令和4年度】

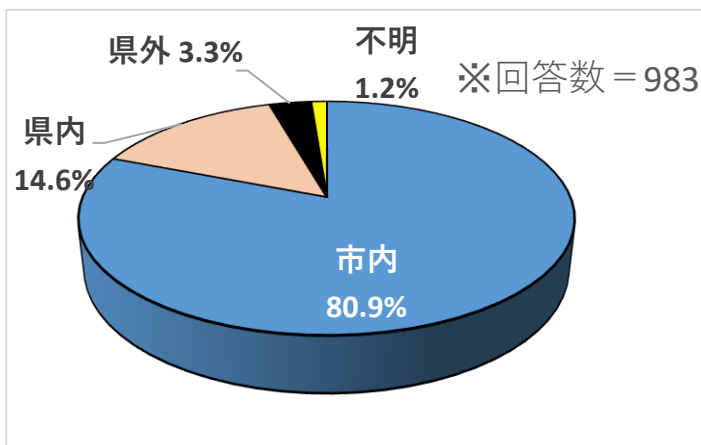


図 23 仙台市の HIV 検査受検者の受検経験別比率【令和 4 年度】

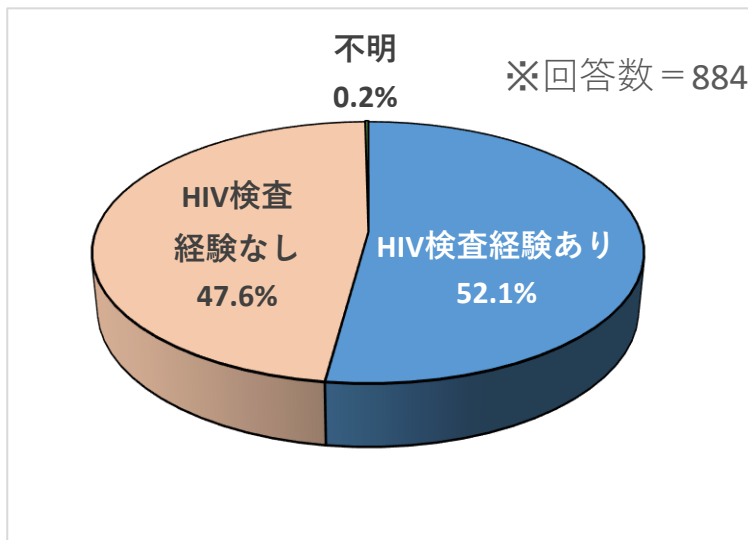


図 24 仙台市の HIV 検査受検者の男女別比率【令和 4 年度】

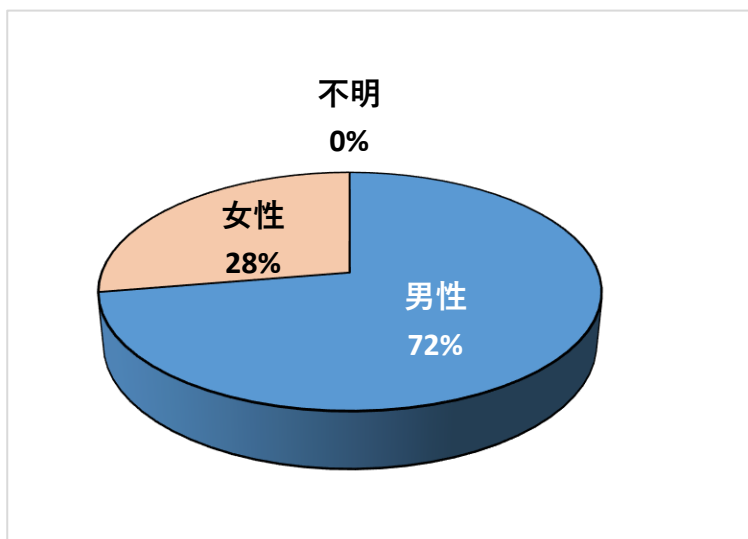


図 25 仙台市の HIV 検査受検者の性別・年代【令和 4 年度】

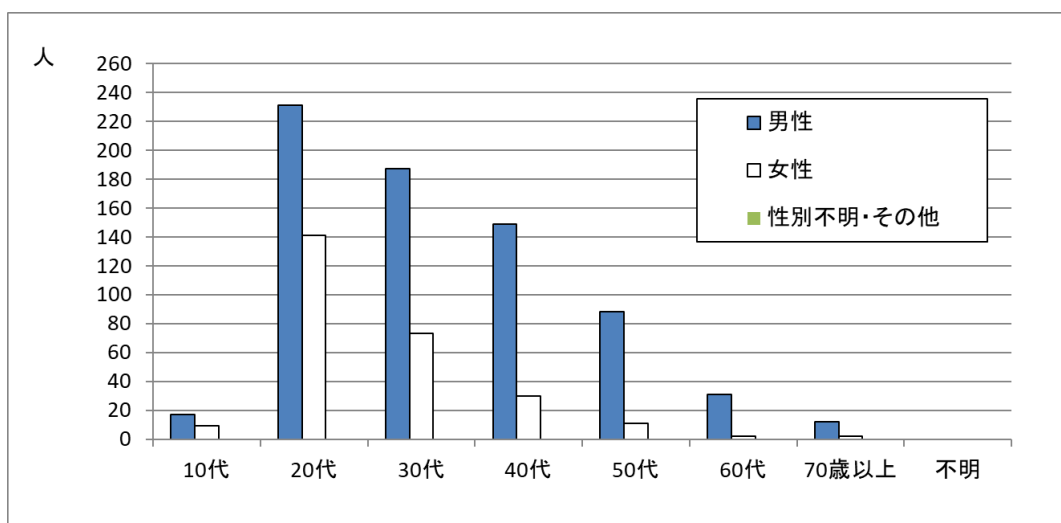


表 4 仙台市の HIV 検査の受検理由の割合（複数回答） 【平成 30 年度～令和 4 年度】

（受検理由／全受検者数） (%)

	H30 年度	H31/R1 年度	R2 年度	R3 年度	R4 年度
性行為による心配	88.0	86.1	90.4	91.7	90.3
血液感染による心配	4.8	3.6	3.7	5.2	2.3
気になる症状がある	15.6	12.0	12.0	10.7	12.4
検査証明のため	0.8	—	—	—	—
その他	10.4	8.6	9.0	11.8	10.1

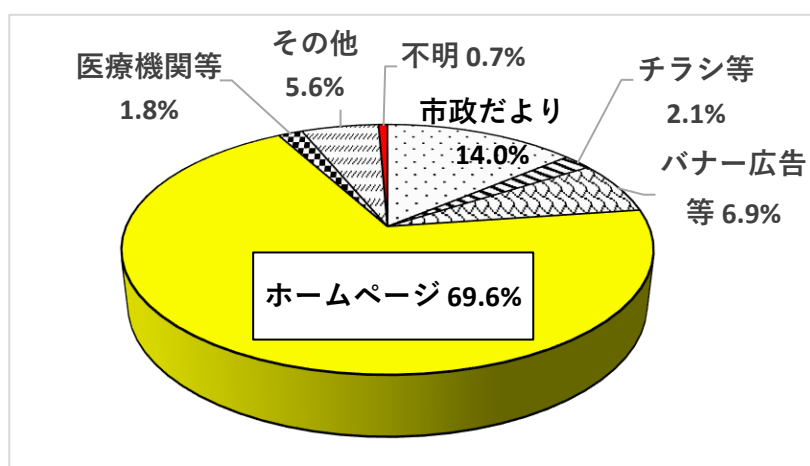
※複数回答のため、受検理由別割合の合計は 100 を超える

表 5 仙台市の MSM の受検状況【平成 26 年度～令和 4 年度】※MSM=男性と性的接触のある男性

	MSM 受検者数(件)	受検者合計数(件)	受検者に占める MSM 割合
H26 年度	93	1,759	5.3%
H27 年度	228	1,703	13.4%
H28 年度	191	1,590	12.0%
H29 年度	261	1,923	13.6%
H30 年度	287	2,006	14.3%
H31/R1 年度	279	1,951	14.3%
R2 年度	85	510	16.7%
R3 年度	127	727	17.5%
R4 年度	166	983	16.9%

図 26 仙台市の HIV 検査を知るきっかけとなった媒体（複数回答）【令和 4 年度】

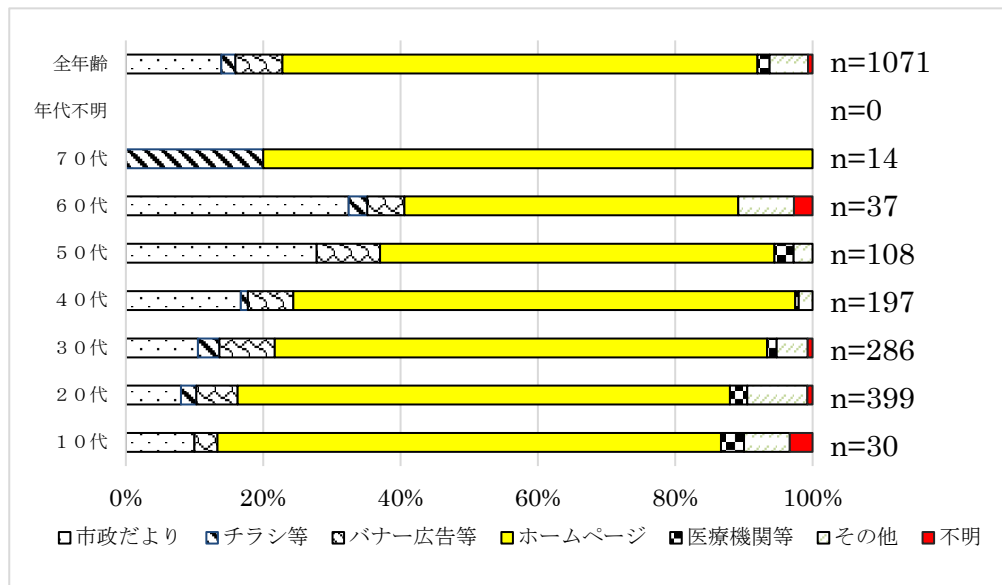
（媒体／回答数）



※当てはまるものすべてを選択する複数回答である

※ホームページには、仙台市公式 HP、仙台 HIV ネット、HIV 検査相談マップ、その他ホームページを計上している

図 27 仙台市の HIV 検査を知るきっかけとなった媒体別割合/年代別（複数回答）【令和 4 年度】
（媒体別／各年代回答数）



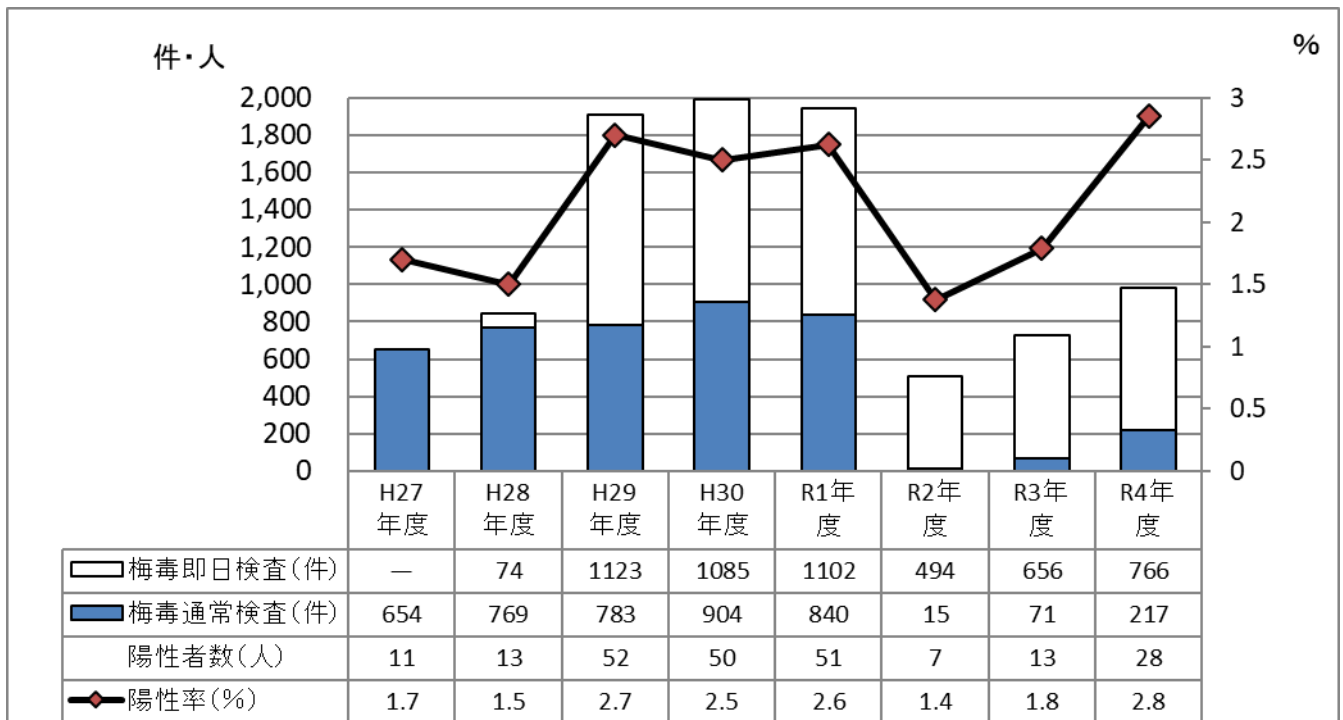
※当てはまるものすべてを選択する複数回答である

※ホームページには、仙台市公式 HP、仙台 HIV ネット、HIV 検査相談マップ、その他ホームページを計上している

(2) 梅毒検査

- ・梅毒検査を段階的に拡充し、平成 29 年度より全検査会場で受検が可能となった。HIV との同時受検を必須とし、梅毒単独の受検は認めていない。
- ・令和 2 年度より新型コロナウイルス感染症対応に伴い検査体制を縮小しており、令和 2 年度の検査件数は 509 件（即日検査 494 件、通常検査 15 件）、令和 3 年は 727 件（即日検査 656 件、通常検査 71 件）であった。
- ・令和 4 年度の検査件数は 983 件（即日検査 766 件、通常検査 217 件）である。
- ・梅毒の陽性率は平成 29 年度より上昇し、検査体制を縮小した令和 2 年度以降陽性率は低下していたが、令和 4 年度再び上昇した。【図 28】

図 28 仙台市保健所の梅毒検査件数【平成 27 年度～令和 4 年度】



※梅毒検査の拡充の経過

- ・H24 年 5 月～ 平日区役所検査で開始
- ・H28 年 5 月～ 青葉区役所夜間検査で開始
- ・H29 年 1 月～ 休日検査（即日）で開始
- ・H29 年 4 月～ 国分町夜間検査（即日）で開始
- ・H29 年 6 月～ イベント検査(即日)で開始、全検査会場で受検が可能となる

(3) クラミジア検査

・仙台市のクラミジア検査は、平成21年10月より青葉区役所夜間検査で実施しており、青葉区役所夜間検査ではHIV・梅毒と併せて最大3項目の同時検査が可能である。

・令和2年度は4月のみ検査を行い、以後は新型コロナウイルス感染症対応のため検査を休止してきたが、令和3年11月より再開している。【図29・表6】

・令和4年度は検査件数203件、うち陽性は15件（陽性率約7.4%）であった。【表6】

図29 青葉区役所夜間HIV検査・クラミジア検査受検者数の推移
【平成20年度～令和4年度】

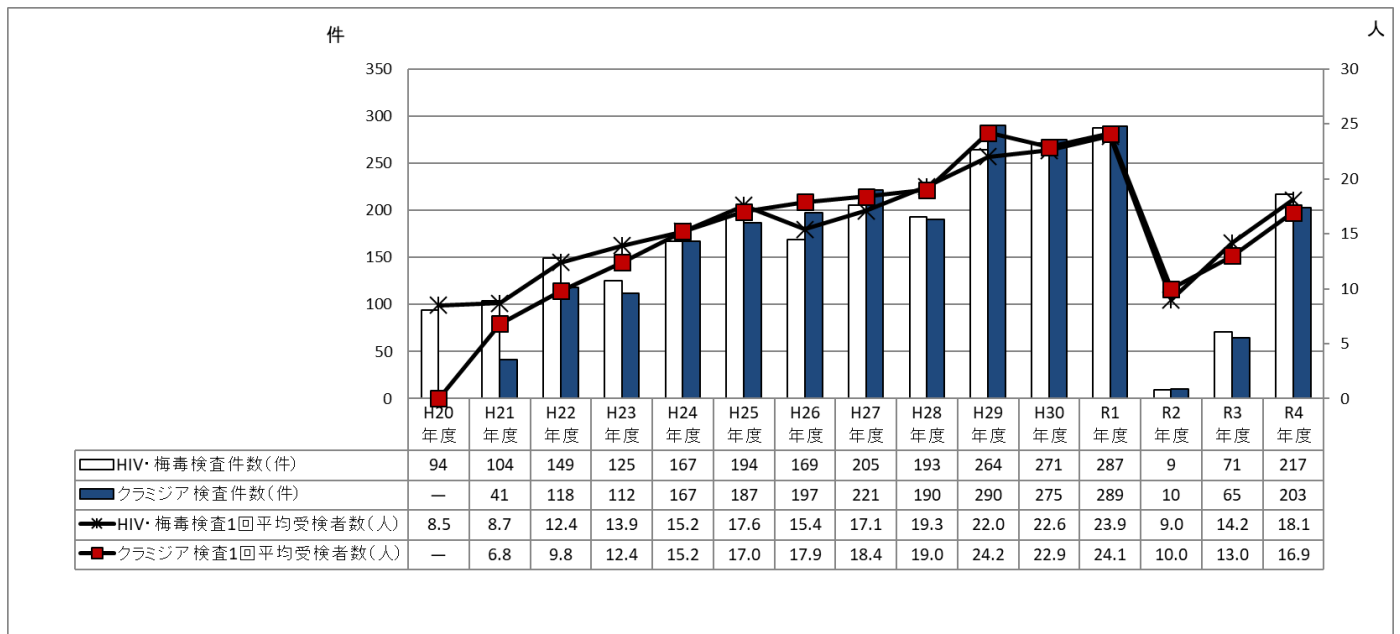


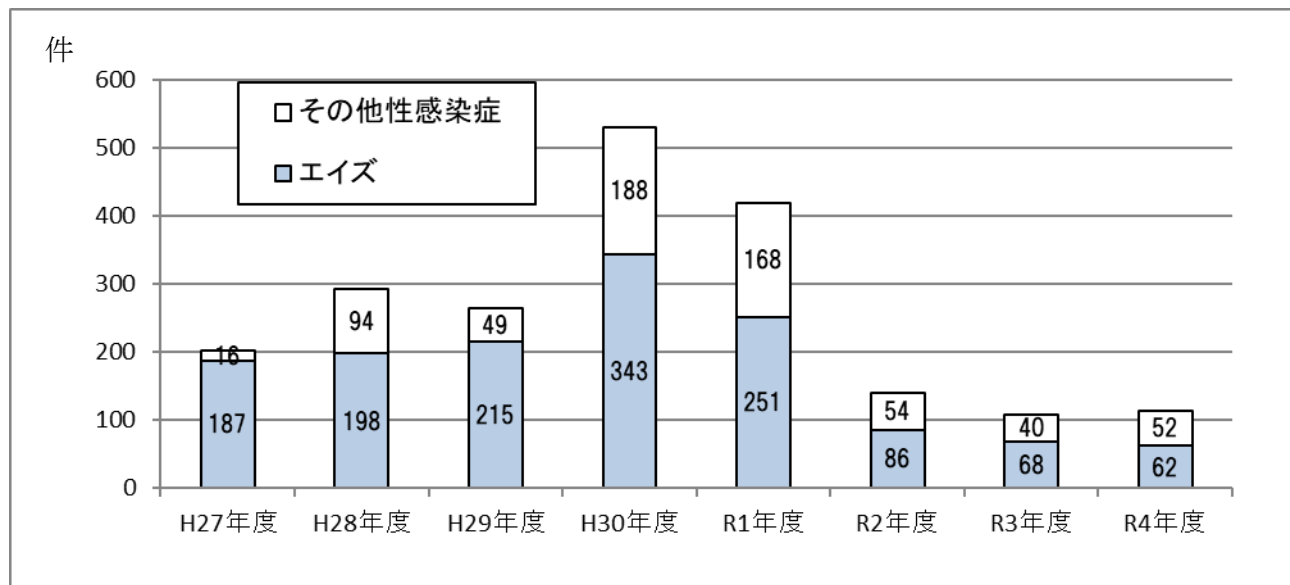
表6 仙台市のクラミジア検査件数と陽性率の推移
【平成27年度～令和4年度】

	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度
クラミジア検査件数(件)	221	190	290	275	289	10	65	203
クラミジア陽性者数(人)	19	7	20	17	13	2	7	15
クラミジア陽性率(%)	8.6	3.7	6.9	6.2	4.5	20.0	10.8	7.4

5. 仙台市のエイズ・性感染症相談

・エイズ・性感染症についての相談を電話・来所にて受け付けている。平成30年度及び令和元年度はHIV/エイズ以外の性感染症に係る相談が増加しており、特に梅毒に関する相談が増加した。検査体制縮小により令和2年度以降、来所相談・電話相談ともに大幅に減少している。【図30】

図30 仙台市の相談数の推移【平成27年度～令和4年度】



6. 仙台市のHIVによる免疫機能障害による身体障害者手帳交付状況

・令和4年度末現在、仙台市でHIVによる免疫機能障害による身体障害者手帳を所持されている方は164名である。【図31】

・令和4年度末現在、手帳交付を受けている60代以上の方は18名である（令和3年3月末から+1名）。【図32】

図31 HIVによる免疫機能障害による身体障害者手帳所持者数の年次推移【平成17年度～令和4年度】

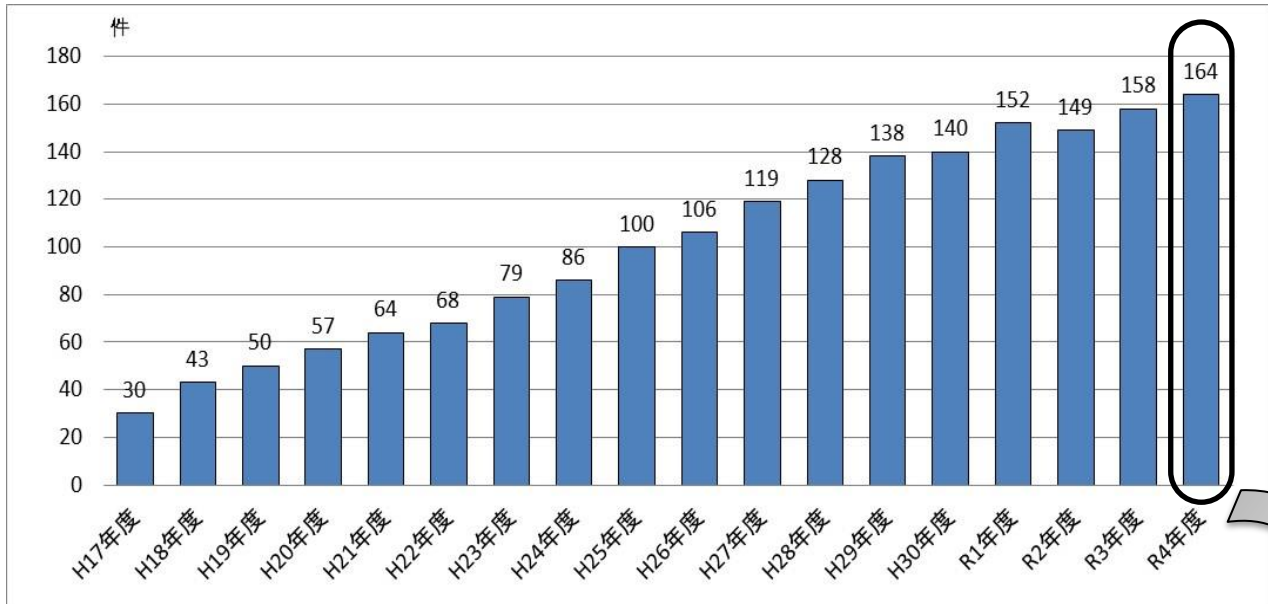
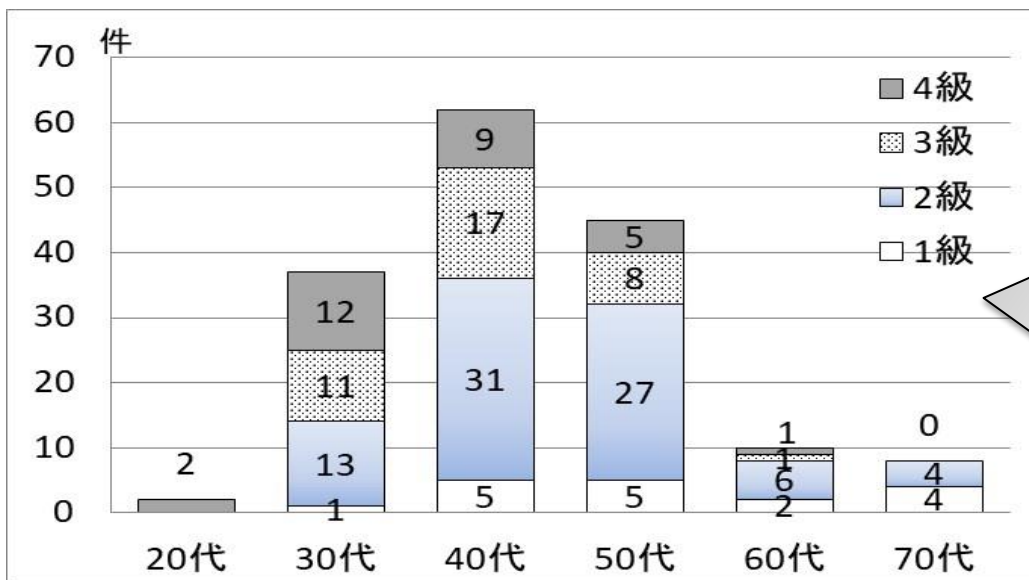


図32 等級・年代別 HIVによる免疫機能障害による身体障害者手帳所持者数（令和4年度末現在）



※ヒト免疫不全ウイルスによる免疫機能障害 障害程度等級表

1級	ヒト免疫不全ウイルスによる免疫の機能の障害により日常生活がほとんど不可能なもの
2級	ヒト免疫不全ウイルスによる免疫の機能の障害により日常生活が極度に制限されるもの
3級	ヒト免疫不全ウイルスによる免疫の機能の障害により日常生活が著しく制限されるもの (社会での日常生活活動が著しく制限されるものを除く。)
4級	ヒト免疫不全ウイルスによる免疫の機能の障害により社会での日常生活活動が著しく制限されるもの